

- 問1 都市の中心部で、周辺部よりも気温が高くなる現象が発生する要因の一つとして、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| 1. 湿った空気が山を越える際、乾燥して高温の風となって吹き降ろすこと | 2. エアコンの室外機や自動車から放出される人工的な熱が増加すること | 3. 温室効果ガスの濃度が上昇し、地球全体の気温が上がること | 4. 海面水温が平年より高くなり、気象に影響を及ぼすこと |
|-------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
- 問2 山地において新しい登山道を計画する際、地形図上で等高線の間隔が広くあいている場所を優先的に選ぶ理由として、地形の仕組みから説明したものとして正しいものはどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 等高線の間隔が広い場所は、周囲よりも標高が高い尾根筋にあたり、見晴らしが良く道迷いのリスクが低い。 | 2. 等高線の間隔が広い場所は、雨水が集中して流れる谷状の地形であり、水源を確保しやすくキャンプに適しているため。 | 3. 等高線の間隔が広い場所は、単位距離あたりの標高差が小さく、傾斜が緩やかで歩行の負担が少ないため。 | 4. 等高線の間隔が広い場所は、地盤が強く土砂崩れの危険性がないことを示しており、安全なルート工作ができるため。 |
|--|---|---|--|
- 問3 川が山地から平地に流れ出る谷口付近において、上流から運ばれてきた砂や礫（小石）が堆積して形成された扇形の地形を扇状地と呼びます。この地形の斜面において、水田よりも果樹園としての利用が一般的である理由は何ですか。 (2026年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 周囲が山に囲まれており、稲の生育に必要な日照時間が不足しているから | 2. 地表付近に常に水が湧き出ており、果樹の根が腐りにくいから | 3. 砂や礫が堆積して層を成しているため、水はけが非常に良いから | 4. 標高が非常に高く、平地よりも気温が低いため稲作に適さないから |
|--------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
- 問4 三重県の志摩半島などの沿岸部に見られる、山地が沈降したり海面が上昇したりすることで形成された、複雑に入り組んだ鋸歯状の海岸線を何といいますか。 (2023年 石川県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------|--------|-------|
| 1. リアス海岸 | 2. 干拓地 | 3. 三角州 | 4. 砂州 |
|----------|--------|--------|-------|
- 問5 日本の気候には、季節によって決まった方向から吹く季節風が大きく影響しています。日本の夏の気候について、その風の吹き方と特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. シベリア方面から南東に向かって吹く冷たく乾いた風の影響で、日本海側で雪が多くなり、太平洋側では乾燥した晴天が続く。 | 2. 小笠原諸島付近から南東に向かって吹く冷たく湿った風の影響で、東北地方の太平洋側で「やませ」と呼ばれる冷害が発生する。 | 3. 中国大陸方面から東に向かって吹く乾燥した風の影響で、春先に日本全域で黄砂が観測される。 | 4. 太平洋側から北西に向かって吹く暖かく湿った風の影響で、太平洋側で降水量が多くなり、蒸し暑い日が続く。 |
|--|---|--|---|
- 問6 火山が噴火した際、高温の火山ガスや火山灰、岩石などが一体となり、山の斜面を時速100キロメートルを超えるような非常に速い速度で流れ下る現象を何といいますか。 (2024年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 火砕流 | 2. 地滑り | 3. 火山泥流 | 4. 溶岩流 |
|--------|--------|---------|--------|
- 問7 日本の各地で見られる気候の特色について述べた文として、和歌山県新宮市のような太平洋側の気候と、島根県出雲市のような日本海側の気候の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 年間を通じて降水量が極めて少なく温暖な地域 - 夏に南東の季節風の影響で降水量が集中する地域 | 2. 夏から秋にかけて台風や梅雨の影響で降水量が非常に多い地域 - 冬に北西の季節風の影響で雪や雨の降水量が多くなる地域 | 3. 冬に北西の季節風の影響で雪が多く降る地域 - 1年を通じて降水量の変化が少なく安定している地域 | 4. 夏と冬の気温差が激しく年間降水量が少ない地域 - 冬に乾燥した晴天の日が続く地域 |
|---|--|--|---|
- 問8 東北地方で発生する「冷害」の特徴やその影響について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---------------------------------------|---|--|
| 1. 冬の積雪が極端に少ないために、春先の農業用水が不足して作付けが遅れる。 | 2. 春先に急激に気温が下がることで、果樹などの芽が凍結して被害を受ける。 | 3. 夏の成長期に低温や日照不足が続くことで、米などの収穫量が著しく減少する。 | 4. 長期間にわたって雨が降らないことで、ため池やダムが枯渇し作物が枯れる。 |
|--|---------------------------------------|---|--|
- 問9 河口付近に形成される三角州について、その形成過程と土地利用の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2023年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 川が山地から平地に出る場所で土砂が堆積してできた傾斜地であり、水はけが良いため果樹園などに利用されることが多い。 | 2. 地殻変動による隆起や海面の低下によって形成された一段高い平坦地であり、浸食に強いため古くからの住宅地として利用される。 | 3. 川の流れが緩やかになる河口で土砂が堆積してできた平坦地であり、水利が良いため水田や港町として利用されることが多い。 | 4. 海岸付近で風によって砂が運ばれてできた丘状の地形で、防風林が設置されるなど、主に風害対策が取られている。 |
|---|--|--|---|
- 問10 中部地方にある各県の気候統計を確認すると、ある県では年間の降水量が非常に多い一方で、夏の日照時間が長く、年間の合計日照時間も比較的多いという数値を示しています。このような日本海側の気候の特徴が生じる仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. オホーツク海高気圧から吹く冷たく湿った北東の風が、山脈を越える際に乾燥した温風となり、一年中安定した晴天をもたらすため。 | 2. 年間を通じて黒潮の上を通る湿った空気が流れ込み、山脈に沿って上昇気流が発生することで、常に降水量と日照時間が並行して増加するため。 | 3. 冬は太平洋側から吹く乾燥した季節風が山を越えて吹き下ろし、夏は南東からの季節風が山脈にぶつかって大雨をもたらすため。 | 4. 冬はシベリア大陸から吹く湿った北西の季節風が山脈にぶつかって雪を降らせ、夏は高気圧に覆われて晴天の日が多くなるため。 |
|---|--|---|---|
- 問11 日本の気候区分において、冬に北西から吹く季節風が日本海を渡る際に水分を蓄え、奥羽山脈などの山脈にぶつかることで、日本海側に雪や雨の降水量が多くなる仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. ユーラシア大陸からの冷たく乾いた空気が、日本海の上空で湿気を得て、上昇気流となって山脈の斜面で雪を降らせる。 | 2. 赤道付近からの暖かくて湿った季節風が、冬に勢力を強めて日本海を北上し、山脈に遮られることで積雪をもたらす。 | 3. 太平洋からの湿った空気が日本海に流れ込み、山脈を越える際に急激に冷却されることで大量の雪を降らせる。 | 4. オホーツク海からの冷たく湿った北東の風が、直接日本海側の地域に吹き込み、冬の間中、曇りや雨の日を多くする。 |
|---|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 エアコンの室外機や自動車から放出される人工的な熱が増加すること	都市部には人口や経済活動が集中しているため、冷暖房の使用や交通量の増加にともなうエネルギー消費が激しく、大量の熱が外部へ放出されます。これに加えて、ビルが密集して風通しが悪くなっていることや、地表面が舗装されて水分の蒸発による冷却効果が期待できないことも、局地的な気温上昇を招く大きな原因となっています。
問2	答え 3 等高線の間隔が広い場所は、単位距離あたりの標高差が小さく、傾斜が緩やかで歩行の負担が少ないため。	地形図における等高線の間隔は、その土地の傾斜の度合いを反映しています。登山ルートなどを検討する場合、等高線が密集している場所は崖や急坂といった難所である可能性が高く、逆に等高線の間隔が広い場所は斜面がなだらかであることを示しています。地形の傾斜を等高線の密度から読み取ることは、安全で効率的なルート選定を行うための基本的な手法です。
問3	答え 3 砂や礫が堆積して層を成しているため、水はけが非常に良いから	扇状地は、川の勢いが弱まる谷口に大きな粒の砂や小石が積み重なってできています。このような地質は雨水が地下に浸透しやすく、非常に水はけが良いという特徴があります。水もちが悪い（水が溜まりにくい）ため、水を大量に必要とする水田には不向きですが、ブドウやモモなど乾燥した環境や排水の良さを好む果樹の栽培には非常に適しています。
問4	答え 1 リアス海岸	山地が海に沈む「沈降」などの地殻変動や、地球規模の海面上昇によって、かつての谷の部分に海水が入り込むことで形成されます。複雑な形状の海岸線は波が穏やかになりやすく、古くから天然の良港として利用されたり、真珠やカキなどの養殖業が盛んに行われたりしてきました。
問5	答え 4 太平洋側から北西に向かって吹く暖かく湿った風の影響で、太平洋側で降水量が多くなり、蒸し暑い日が続く。	日本の夏は、太平洋上に発達する高気圧（小笠原高気圧）から吹き出す季節風の影響を強く受けます。この風は太平洋側から日本列島（北西方向）へと吹き、広大な海の上を通る際、暖かく湿った空気を大量に蓄えます。そのため、日本列島の山脈にぶつかる太平洋側で雨が多くなり、全国的に高温多湿な気候をもたらします。一方、シベリア方面から南東に吹くのは冬の季節風であり、季節によって風向きが大きく変化するのが特徴です。
問6	答え 1 火砕流	火山の噴火によって放出された高温の固体物質とガスが混合し、重力によって斜面を急速に流下する現象です。1990年代の長崎県・雲仙普賢岳の噴火でも大きな被害をもたらしました。非常に高温かつ高速であるため、発生を確認してから避難することが困難な、極めて危険な火山現象です。
問7	答え 2 夏から秋にかけて台風や梅雨の影響で降水量が非常に多い地域 - 冬に北西の季節風の影響で雪や雨の降水量が多くなる地域	太平洋側の地域（新宮市など）は、夏に南東の季節風の影響を受けるほか、梅雨や台風の影響で6月や9月ごろに降水量が突出して多くなるのが特徴です。一方、日本海側の地域（出雲市など）は、冬に水分を蓄えた北西の季節風が山地にぶつかることで、12月から1月にかけて雪や雨による降水量が他の時期よりも多くなります。
問8	答え 3 夏の成長期に低温や日照不足が続くことで、米などの収穫量が著しく減少する。	冷害は、主に夏季の異常低温によって引き起こされます。選択枝にある「長期間雨が降らない」のは干害（かんがい）、「春先の急激な低温」は霜害（そうがい）の説明です。東北地方では「ひとめばれ」などの寒さに強い品種を導入したり、水田の水の深さを調節して稲の根元を保温したりすることで、冷害への備えが行われています。
問9	答え 3 川の流れが緩やかになる河口で土砂が堆積してきた平坦地であり、水利が良いため水田や港町として利用されることが多い。	三角州は河口付近で土砂が「堆積」してできる平坦な地形で、標高が低いため洪水被害を受けやすいという側面もありますが、古くから人々の生活の場となってきました。選択枝にある「山地から平地に出る場所でできた傾斜地」は扇状地を指し、三角州とは形成場所や土地の性質が異なります。
問10	答え 4 冬はシベリア大陸から吹く湿った北西の季節風が山脈にぶつかって雪を降らせ、夏は高気圧に覆われて晴天の日が多くなるため。	日本海側の気候、特に北陸地方などでは、冬にシベリア高気圧から吹き出す北西の季節風が、対馬海流（暖流）の影響で水蒸気を蓄えた状態で日本海を渡ってきます。これが日本の背骨となる山脈にぶつかることで、冬に世界的な多雪地帯となるほどの降水量（降雪量）をもたらします。一方で、夏は小笠原高気圧の影響下で天候が安定しやすく、フェーン現象などの影響も受けて気温が上がり、日照時間が長くなる傾向があります。このため、多雨（多雪）でありながら日照時間も確保されるという独特な統計結果が現れます。
問11	答え 1 ユーラシア大陸からの冷たく乾いた空気が、日本海の上空で湿気を得て、上昇気流となって山脈の斜面で雪を降らせる。	冬になるとユーラシア大陸から冷たく乾いた北西の季節風が吹き出します。この風が日本海を通過する際、対馬海流などの影響で蒸発した水分を大量に含み、湿った空気へと変化します。この空気が奥羽山脈などの高い山々にぶつかって上昇することで、雲が発達し、日本海側に世界でも有数の豪雪をもたらします。一方、山を越えた後の風は乾燥し、太平洋側では晴天の日が多くなります。